大分大学　医学部　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医学部　医学科　【学士（医学）】					専門的知識・技能の活用	コミュニケーション能力	創造的問題解決力	社会的責務と倫理	地域発展・人類福祉への貢献	生涯学習力
医学部　医学科	ディプロマ・ポリシー	患者の立場を理解した全人的医療ができるよう、豊かな教養と人間性、高度の学識、生涯学習能力、国際的視野を備えた人材を育成することを目的として実践的な医学教育を行う。本学科は、この教育目標を踏まえ、学士課程を通じて以下に示す資質、知識や能力を修得した学生に対して、学位を授与する。			疾病に関する基礎的・臨床的知識を身につけ、疾病予防や診断、治療方法の改善、原因や病態の解明・向上に貢献できる。	コミュニケーション能力と協調性並びに指導力を備え、チーム医療の実践ができる。	科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的に実証する方法論を身につけている。	幅広い教養と高い倫理観・責任感を備え、個人の生命や健康、権利、尊厳を守り全人的医療が行える。	広い視野から医療や保健･福祉の問題を理解し、地域社会はもとより国際的にも活躍、貢献できる。	問題発見・解決型の効果的な自学自習の習慣を実践でき、最新の医学知識や技術を習得するための生涯学習能力を備える。
	カリキュラム・ポリシー	医学部医学科では、卒業認定･学位授与方針(ディプロマポリシー)に掲げる知識や能力を修得するために､次のような教育内容と方法を取り入れた教育を実施する。	教育課程の編成と教育内容	「教養教育」では、医師としての基本的な教養や倫理観、豊かな人間性を育てる。国際的にも活躍できるよう６年間継続した医学英語教育を実施する。			○	○		○
				「専門教育」では、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を完全実施出来るカリキュラムを構築する。「基礎医学」では医学に必要な基礎的知識と技能を身に付け、「臓器別コース」では基礎と臨床を機能別に統合した力リキュラムを導入し、問題解決型学習法（PBL、チュートリアル教育）や、チーム基盤型学習（TBL）を取り入れ、問題解決能力や自己学習習慣の習得を図る。	○		○	○	○	○
				「研究室配属」では、本学あるいは国内外の研究施設で研究に従事し、科学的論理的思考やリサーチマインドを涵養する。			○		○	○
				「臨床実習前導入教育」では、臨床実習にとって必要な診察手技、診断学などの講義・実習を行い、学習によって到達した知識、技能を医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）で検証した上で、総括的評価に合格した学生が臨床実習に参画できることとする。	○	○	○	○	○	○
				「臨床実習」では、診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ）を実施する。さらに、地域医療に貢献する能力を身につけることを目的とした地域医療学実習、救急車同乗実習を行う。	○	○	○	○	○	○
			教育方法		・将来、専門領域の優れた知識と能力を修得するための基礎として初年次に選択科目を取り入れた教養教育科目および専門基礎科目を実施する。この教育により専門領域の基礎となる学問や幅広い領域の知識や考え方を学修し、豊かな人間性や的確な判断能力、多様性の認識と受容などの能力養成をめざす。 ・医学を効率よく学修するために、まず基礎医学コースとして正常編、病態編を総論的に学び、それぞれの臓器別に分かれた臓器別コースで基礎医学から臨床医学までを含めて各コースで包括的学修を行い、臨床医として必要な知識修得を主とした学修を行う。 ・将来医療人として活躍するために、疾病や人体の機能を明らかにしようとする、研究マインドを要請するために、大学の研究室で約３か月間の研究活動を行う。 ・臨床医として必要な、知識、技能、態度を要請するために、４年次後期から、実際の医療チームのメンバーとして実際の診療に参加する、診療参加型臨床実習を行う。 ・学修期間を通して、学修者が主体的に学修が出来るように、講義でのグループ討論、チュートリアル教育などのアクティブラーニングを積極的に取り入れて、学修効率が向上する方法を取り入れている。					
			学修成果の評価		・教育目標（知識、技能、態度）に応じて、筆記試験、レポート、実地試験、観察試験などで評価を行う。 ・４年次には全国統一の全国医科共用試験（CBT と OSCE）の合格および、その他必要な単位履修して初めて臨床実習に参加できる。 ・臨床実習の一部科目ではポートフォリオを用いた自己達成度を評価する。 ・６年次には、専門教育科目ごとの卒業試験と Post-CC OSCE（臨床実習後の臨床実技試験）により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行う。 ・全ての授業の成績、全国医科共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的に行う。 ・学修成果の評価は，アセスメント・チェックリストにより実施する。					

大分大学　医学部　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医学部　看護学科　【学士（看護学）】				専門的知識と技術の活用	コミュニケーション能力	創造的問題解決力	社会的責務と倫理	地域発展・人類福祉への貢献	生涯学習力	豊かな看護観
医学部　看護学科	ディプロマ・ポリシー	人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の修得を促し、看護学の発展と保健医療福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を育てる。この教育目標を踏まえ、学士課程を通じて以下に示す資質、知識や能力を修得した学生に対して、学位を授与する。		看護学と関連諸科学の知識を基盤に人間を統合体（身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在）として理解し、看護実践を創造的に展開できる。また、看護技術を深化させることができる。	看護の対象となる人々に対して、個々の権利と多様な価値観を認め、それを基盤とした援助的人間関係を発展させることができる。また、自分自身の意見を文章・口頭で論理的に表現し、保健医療福祉チームや地域の人々と積極性と協調性をもって連携・協働することができる。	看護専門職として科学的思考法を用いて看護上の問題を明確化し、創造的問題解決策の提案、実践を行い、結果を検証することができる。	看護専門職に必要な社会的責務を自覚し、一人ひとりの生命や尊厳と向き合い、対象にとってよりよい看護を考え実践することができる。	社会の動向や国内外の各地で生じている健康課題に関心を持ち、解決のための方策を考えることができる。また、専門職や地域の人々と共に解決策を考え実践することができる。	主体的・自律的な学び方を身につけ、学際的な知的関心を持って看護の本質を探究し続けることができる。	看護の対象となる人々に関心を寄せ、寄り添い、人間的な関係を築くことのできる豊かな感性を身につけ、看護学の学修を通して、自己の看護観を育むことができる。
医学部　看護学科	カリキュラム・ポリシー	看護学は、人間の健康問題にかかわる身体的、精神的、社会的側面のあらゆる反応に対して、その恒常性の維持と健康の増進を図るため、Science と Art を統合した実践科学である。 看護学科は、看護学を基盤に、地域・臨床での実践、教育、管理及び研究分野において活躍する人材の育成にむけ、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる７つの能力を学修するために、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。	教育課程の編成と教育内容：「教養教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門教育科目（看護学全般、統合分野・看護研究、臨地実習）」による編成とし、早い時期から看護学に触れる機会を提供するため、1 年次から 4 年次までくさび型に配置する。また、学生の多様な興味と関心にそえるように選択科目を多く設ける。						○	○
			教育課程の編成と教育内容：「教養教育科目」は、看護学を学ぶうえで本質的土台となる科目群である。人間の生命の尊重、人権の尊重、人間の理解などを通して人間的成長を促す。	○	○	○	○	○	○	
			教育課程の編成と教育内容：「専門基礎科目」は、「専門教育科目」へ発展するための基盤となる科目群である。看護学の主要概念である人間、健康、環境に関する知識の修得を図る。	○	○	○	○	○		○
			教育課程の編成と教育内容：「専門教育科目」は、専門職としての基礎を培う科目群であり、1 年次から 4 年次までの学修過程に合わせて段階的に配置する。講義・演習では、看護実践能力の基盤となる知識･技術の修得を図る。また、臨地実習では、教室で学んだことを臨地で確かめ、看護の理論と実践を有機的に統合し、看護実践能力を育成する。	○	○	○	○	○	○	○
			教育方法	・看護実践能力の基盤を形成する講義・演習科目は、主体的に学ぶ力や学生相互に学び合う力、問題解決能力を培うため、少人数グループのアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を実施する。 ・学生の主体的に学ぶ力を培い事前学修および事後学修を促すために、e ラーニングシステムを活用した授業を設計する。 ・臨地実習は、多様な看護実践の場において、学生個々がこれまで学んだ知識を統合し、看護の対象者に自分で考えた看護を実践・評価し、看護学の探究と自己の看護観を深める学修である。そのため、学生が主体的、能動的に実践し学べるよう臨地側指導者と教員とで協働し、学修環境を整える。 ・臨地実習や看護研究においては、試験等では測定できない学生個々がもつ個性や可能性を考慮しながら学修状況を把握し、個別的な教育・指導を行う。						
			学修成果の評価	・学生を対象に各授業科目およびカリキュラム全体の教育評価に関する調査を行う。調査をとおして、学生は、授業科目の学修目標の到達度やカリキュラム履修による自己の成長を評価する。また、教員は、学生の視点や意見を把握し、担当する授業科目やカリキュラム全体の評価を行う。 ・４年次のローテーション実習や看護学総合実習、看護研究は、1～3 年次の学修を統合し、学生個々が主体となって看護学を探究する授業科目であるため、統合的な学修になりえているのか調査を行い、教育評価に活用する。 ・卒業を目前にした４年生に対して教育評価調査を実施し、カリキュラムの履修を通じて身につけた能力や成長に対する認識、教育内容・方法についての意見を把握し、カリキュラム全体の評価を行う。 ・保健師および看護師国家試験の結果を分析し、次年度以降の教育・指導につなげる。 ・毎年度、カリキュラム評価報告書（各授業科目の教育評価や卒業時学生による教育評価調査等を掲載。学内ホームページにおいて公開）を作成・公表し、教育の成果と課題を検討する資料として活用する。 ・学生が、自己の成長を適切妥当に評価できるよう学修ポートフォリオの作成・管理を促す。						

大分大学　医学部　卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

医学部　先進医療科学　【学士（医療科学）】				専門的知識・技能の活用 DP1	コミュニケーション能力　DP2	創造的問題解決力 DP3	社会的責務と倫理 DP4	地域発展・人類福祉への貢献　DP5	生涯学習力 DP6
医学部　先進医療科学科	ディプロマ・ポリシー	豊かな教養と人間性を備え、医学・医療の基盤を支え、専門領域を超える諸課題に挑戦し、さらに発展させるために、最新の医療科学の知識と技術・技能を領域横断的に 学修した融合人材を育成することを目標とする。 この教育目標を踏まえ、学士課程を通じて以下の資質や能力を修得した学生に対し て、学士(医療科学)の学位を授与する。		医学･医工学の発展及び健康寿命の延伸に活用するため、人の健康と疾病及び医療科学、生命科学、医工学、医療 機器研究開発に関する広範な知識と技術･技能を身につけている。それらの領域横断的な学習の成果として、医療社会が求めるニーズに対応したイノベーション創出につながる能力を身につけている。	他者と協同して課題解 決に取り組むことがで き、さらに多職種によるチーム医療に貢献するためのコミュニケーション能力と協調性・国際性を身につけている	科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的に 実証する方法論を身につけ、自ら主体的に課題を設定し、批判的思考法を用いて創造的問題解決策を提案・実行できる	医学・医療・福祉に携わる人間として強い責任 感と高い倫理観とを備え､自らの良心と良識に従い判断･行動できる。	地域医療の発展や人類の健康と国際社会の福祉の増進の重要性を理解し、学修した自らの能力を社会に還元する意思を持ち行動できる。	最新の医学知識や技能を継続的に修得するため、自らのキャリアデザインを含めた目標を設定し、高い学習意欲と探求心を持って主体的に学習することができる。
	カリキュラム・ポリシー	CP1 生命健康科学コー ス、臨床医工学コー スの各コースで「基礎分野科目｣及び「専 門科目」の履修を基 本とし、さらに融合人材育成を目標とし た両コース共通の 「融合人材育成科 目」を設定する。融 合人材育成科目は中 核となる「先進領域 融合科目群｣､及び それを補完する「国 際力強化科目群」「未 来創造キャリア・デ ザイン科目群｣｢医 療マネジメント科目群」で構成する。	教育課程の編成と教育内容	CP2 人の健康と疾病及び生命科学、医療科学、医工学、 医療機器研究開発に関する基礎的な知識・技能や教 養・倫理観、コミュニケーション能力の基礎を育て る科目をもって 「基礎分野科目」を構成する。	◎	◎		◎		
				CP3 科学的根拠に基づく論理的な思考や、それを実証し 説明するための基礎医学に関する知識・方法の修得 により、生涯にわたって医療人として活躍し、地域 や社会に貢献する上で必要となる専門性を涵養する 科目をもって 「専門科目」を構成する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
				CP4 複数分野の融合領域における先端的な内容を学修す ることによりそれらを統合し、先進領域での応用能 力や、医療科学のイノベーション創出に発展させる 能力を涵養する科目をもって 「先進領域融合科目 群」を構成する。	◎	○	◎	◎	◎	
				CP5 グローバル化する社会で必要とされるコミュニケー ションスキル、医療制度の多様性等について学修す ることにより、国際競争力のあるリーダーとしての 国際対応力、主体的かつ対話的なコミュニケーショ ン能力、医療、医療関連技術の国際標準化に対応で きる能力を涵養する科目をもって 「国際力強化科目 群」を構成する。		◎			○	◎
				CP6 医療技術の進歩、新規技術・製品開発のノウハウや 出口戦略、知財管理等について学修することによ り、医療変革（技術の進歩・制度の改革）に対応で きる能力やアントレプレナーシップを涵養する科目 をもって 「未来創造キャリア・デザイン科目群」を 構成する。	○	○	◎			◎
				CP7 医療制度、医療政策、地域医療現場の課題、医療経 営、診療報酬制度、病院運営やリスクマネジメント 等について学修することにより、医療の周辺環境の 変化と医療制度変化に対応できる能力や、病院運営 に貢献しうる能力を涵養する科目をもって 「医療マ ネジメント科目群」を構成する。	○	○		◎	◎	
			教育方法	1．医学と理工学とマネジメントが融合したカリキュラムを提供することにより、医学・医療における社会科学をも含めた「総合知」の創造及び融合人材の養成を行う。 2．多分野の融合領域を修得することを主眼とし、進路を想定した履修モデルを示し指導を行う。学生は自らのキャリアパスを描き、高学年では各自の目標へ向かって専門科目、実習及び研究を必修または選択で履修する。 3．研究者養成を主眼において、研究室配属や卒業研究といった授業科目を中心に研究マインド醸成のための手厚い指導を行う。 4．臨地実習においては、病院の各部署との連携を中心に、実際の検査材料や患者に直接接し、経験することで、臨床検査技師として不可欠な技術の修得、検査の意義や検査結果の解釈や理解、また人工臓器や生体機能代行装置の実臨床での活用・運用についての知識・理解を習得させる。						

			学修成果の評価	１．教育目標（知識、技能）に応じて、筆記試験、レポート、実地試験、口頭試問などで評価を行う。 ２．国際力強化では「グローバルコミュニケーションⅡ」を履修した学生について、TOEFL、TOEIC 及び IELTS にて評価を実施し、海外研修や海外インターンシップを選択する際の評価項目とする。 ３．研究室配属または海外研修、海外インターンシップによる経験知の集大成として、最終学年次に学問研究の成果として卒業研究をまとめ、成果発表会を行い評価する。 ４．学生が、自己の成長を適切妥当に評価できるよう、学修ポートフォリオの作成・管理を促す。 ５．学修成果のアセスメントは、学修目標に即して多元的、総合的に行うこととし、アセスメント・チェックリストにより実施する。

※◎は，強く関連があり主として涵養する能力に対応している。 ○は，関連があり涵養する能力に対応している。